

会議要録

会議の名称	酒田コミュニケーションポート（仮称）整備検討委員会（第4回）
開催日時	平成28年8月29日（月） 午後1時30分 ～ 午後4時00分
場 所	公益研修センター1階 中研修室
出席者	<p>○出席委員 矢口 明子 委員（委員長）、小田島 健男 委員（副委員長）、 片桐 晃子 委員、齋藤 一男 委員、佐藤 晶子 委員 高橋 利春 委員、田代 典子 委員、中原 浩子 委員</p> <p>○欠席委員 久木原 満 委員、佐藤 真美 委員、平尾 清 委員</p> <p>○事務局 中川企画振興部長、大石教育部長、阿部都市デザイン課長兼図書館主幹、 阿部図書館長、長尾観光振興課長補佐 （都市デザイン課） 高橋課長補佐、本間主査、土井係長、高橋主任、今井主事</p> <p>○基本計画策定支援業務委託者（株式会社図書館総合研究所） 野田取締役、松田主任研究員</p> <p>○再開発事業者（西松建設株式会社） 平澤課長、富田担当課長、渡部氏</p>
<p>1 開 会（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回から駅前再開発事業予定者として決定した西松建設株式会社、及び酒田コミュニケーションポート（仮称）基本計画策定業務の支援をお願いする株式会社図書館総合研究所からも出席する。 <p>2 あいさつ（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前整備のハード部分については、7月に西松建設を事業予定者として決定した。基本協定、都市計画決定に向けた準備を進めている。 ・本日は、西松建設さんの提案内容、酒田おもてなし隊活動事例、コワーキングスペース運営事例、先進事例視察について報告いただき、議論をしていただきたい。 ・今回を整備検討委員会の前半の区切りとしたい。すでに行っている市民アンケート、これから行う市民ワークショップ、これまで委員の皆さまからいただいた意見等を踏まえ、10月末を目途に事務局の方で基本計画の素案・骨子を作成していきたい。 <p>3 議 事</p> <p>(1) 駅前再開発提案事業プランの概要について（資料2及び提案書抜粋資料に基づき西松建設㈱説明）</p> <p>西松建設㈱あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の計画にあたり、2つのことを大事にしたいと申し上げさせていただいている。一つ目が、酒田市民に愛される場所を作りたいということ。二つ目が、事業の実現性の可能性ということで、実際に実現できる事業プランニングをしていきたいということを申し上げた。 ・本委員会は、一つ目の市民に愛される場所とするにはどうするかをご議論いただく場と認識してい 	

る。この再開発事業は、建物が建ってからのの方が一番重要と考えている。ソフト事業についても、我々としても深く携わっていきたいと考えているので、委員各位からご指導をいただき、より良い施設が出来ればと考えている。

委員

・「傘福」についてどう位置付けるかが気になる。「傘福」と「傘鉾」の違いが分からない方がいたり、伊豆稲取の「つるし飾り」、柳川の「つるし飾り」と庄内地方の「傘福」は、意義が違うものである。「傘福」は、寺社仏閣への奉納されていたもので、お雛様とは別のものである。あるべき場所と役割を踏まえ、酒田を代表する玄関口の施設、図書館の前に相応しいものなのかどうか、きちんと議論すべきだと思う。

委員長

・ご意見として承る。

(2) 事例報告

①酒田おもてなし隊活動を通じての駅前観光案内の方向性について（当日配布資料に基づき委員説明）

・二次交通の整備が課題。列車とバスの接続が悪く、バスの案内が出来なかった。観光客が行きたい方面のバスが無かったり、どのように案内すれば良いか難しい状況。また、バス停は4つもあり、非常に案内が難しい環境にある。

・また、お客様から良く言われて困ったのが、電車を待つ時間の間、行く場所として、カフェ、喫茶店、食事処を聞かれるが、案内が出来ず、毎回叱られるのが、おもてなし隊活動の学生達であった。食の都なのに何も無いのか、みたいなことも言われた。あっても2時には閉まってしまう。食を楽しむにわざわざ来た観光客も多かったが、応えられなかった。

・土門拳に行きたいとしても、タクシーで2,000円と聞くと諦めて、駅で2時間過ごして帰っていく観光客もいた。

・観光案内する（しやすい）ツールが案外乏しい。今度の新施設では、観光情報センターに本や資料を置くというので、そこは期待したい。これまでだと、本間様の話をするにしても、膨大な資料をカウンターに持って行って説明していた。

・駅弁も庄内弁があるが限定のため、すぐ売り切れてしまう。その他のものは無い。

・観光で人を呼ぼうと、関係団体で取り組んでいるが、お客様の要望に十分お応えできる環境が整ってなく、学生、我々はいつも残念な思いであった。

・また、情報が集約されていない。例えば、飛島の定期船の就航状況すら一々直接、個別に確認しないといけなかった。また、宿泊状況も集約されていなく一件一件問合せしないといけなかった。

グリーンツーリズムも良いプログラムがあるのに、その情報が観光案内所に届いていないため、お客様へも紹介できない。酒田コミュニケーションポートには、地域のいろんな情報が集まってくるような場所になってほしい。

・欧米からのお客様もいるので、外国語のインフォメーションも出来ればと思う。

事務局

・駅からハイキングやこのような取組みは、外に広がっているのか。

委員

・お陰様でリピーターがついており、SNS等でも広がっている。また、今年の3月には東京で行われた「全国学生フォーラム」でこの取組みを発表している。JR東日本からも評価されている。各地（稚内とか長崎）の大学からも問い合わせが来ている。

事務局

・駅前の新しい拠点施設として、インフラ面の整備、情報集約等は行っていききたいが、こうしたソフト面での活動も展開できるようになれば良いかと思う。

委員

・学生が歴史など自分で全部調べて、全コース付いて案内している。大山で実施した際は、紙芝居や劇にするなどの工夫をしたり、地元自治会と連携して甲冑や火縄銃をさわってもらったりしている。学生のガイドのスキルは、かなり上がっている。

・ぜひ、駅前の新しい拠点施設でもスタッフ、コンシェルジュとして活用していただければ。

委員

・タクシードライバーの上級案内者を養成しようということで、テキストを作成したことがかつてあった。酒田のことは分かるが、鶴岡のことは分からない方（タクシードライバー）はいる。庄内地方への観光客に対しては、それでは困る訳である。美しい庄内を共有するということで、そうしたこれまで蓄積したものがあるはずなので、周辺自治体や庄内総合支庁にあるなら、活かしてもらいたい。この機会に、これまで個別に作られてきたものを酒田市が集約し、みんなで磨いていければよい。

委員長

・中原委員からあったバス停の件や JR との接続の課題は、32 年度（駅前再開発の完成予定時期）を待たず、取り組めるものと考えるので、私自身も気になっているところなのでして行きたい。佐藤委員が言われたこれまでの取組みや、中原委員から発表があった学生による活動など、市役所としては、そうした市民の活動を更に後押しできるようなサポートをしていきたい。

委員

・鳥海山を案内するのに、遊佐町教育委員会が作成した冊子でとてもいいものがあったりする。庄内一円にあるもの、蓄積されたものを活かしていければと思う。

委員

・高齢者や観光客、高校生など、車で移動できない人にとってのコミュニケーションポートの意味も考える必要がある。

・庄内全体、若しくは北庄内をとらえ、広域の拠点としての“ポート”になってほしい。

②コワーキングスペース（UNDERBAR）の運営について（公益ホール内当該施設に移動し酒田市商工港湾課職員及び運営スタッフ（熊澤氏、荒木氏、高橋氏）から説明）

委員

・子育て広場を運営しているが、同じような思いでやっている。広場に来るお母さん方もいろんなスキルを持っていたり、誰かとつながりたい、行政とつながりたいと思っていたりする。それをつないでいく場である、というところがよく似ていて参考になった。

事務局

・この場に置いてある本についても選んでいるのか。

運営スタッフ

・日本政策金融公庫酒田支店と協定を結んでおり、起業の参考になる図書を寄贈していただいている。ローカルメディア誌『ソトコト』や絵本などもあるが、創業関係が中心である。

運営スタッフ

・利用者が、他の人にも読んでもらいたいという本を持ってくることもある。置いておくことでいろいろな関係性ができてくる。

③第3回委員会（先進事例視察）の報告について（資料3-1～3-3に基づき事務局説明、資料3（参考）に基づき㈱図書館総合研究所説明）

・質疑なし

(3) これまでの委員会等の意見の整理について（資料4～6に基づき事務局説明）

・質疑なし

(4) 意見交換

委員

・酒田になくてはならない図書館を作るなら、すでに酒田市立図書館が持っている強みの補強、魅力アップをしていくのがよいと思う。何が強みなのか？

事務局

・収蔵方針ということになると思うが、方向性はまだ決まっていない。蔵書で酒田らしさを出すのはなかなか難しい。現在、図書館が課題と考えているのは、10代後半から20代・30代くらいの利用者層、全国的にも利用が少ないこの層への働きかけである。酒田市読書活動推進計画の中でもブックスタートなどの活動に取り組んでいるが、これを継続していきたい。読書習慣を大人になっても続けて行っていけるような蔵書整備をしていきたい。

委員

・ブックスタートは、酒田市が山形県内でも先進的に取り組んでいる。ボランティアも育成されている。最近「読育」という考え方が出てきた。山形県は人材もおり、全国に先駆けて読育ができる地かもしれない。人材育成が大事。人類の遺産である書籍等をどうやって自分の人生に活かすかを教えてくれる人、出会わせてくれる場所がもっとあってほしい。レベルの高い学習ができる場としての公共図書館、大人にとっての読育ができる場になってほしい。

委員

・「コミュニケーションポート」を作るという市長の言葉が胸に響いている。図書館は手段であり、人が集う場所を作るのが今回の事業と考えている。その点を大事にしていきたい。若者が何で図書館を使わないかという、例えばバンクーバーの図書館にはたくさんの若者がいた、そこは、飲食自由、パソコンも自由に使える。パソコンが使える、Wi-Fiがあることは、若者視点では重要。

・遊佐町は、小学生が年間130冊本を借りるという非常に素晴らしい取組みをされている。そこにも何かヒントがあると思う。

・人口が減少するなかで、人と人がつながる場として、また、そこから広がっていく仕掛け作りをお願いしたい。

・駐車場料金は要るのか？

事務局

・これからの検討となる。基本的に、公共施設利用者は無料になるだろうと考える。

事務局

・一定の管理上、駐車場にゲートを設置するなり、料金を徴収できるようなシステムを設置することになると思う。その上で、割引の対象をどこまで広げるかを検討していく。

委員

・視察においても、やはり「人」が大事だと思った。紫波町は図書館経験が無かったのにあれだけのものができた。多賀城市は、市役所と現場のギャップがあった。紫波町は思いを自分たちで実現しようとしている。思いを持った人が経営することが基本である。

・酒田という枠を超えて、北庄内の拠点として、観光情報も北庄内全体の発信をしていけるように、そのための人が必要である。

・「読育」は、あまり馴染まないのではないかと思う。酒田市の事例だと、学校図書館との連携という酒田の伝統を活かし、小中学生からの指導を継続してそれが高校生にも繋がるようにしてほしい。

委員

・駅前整備に関する一般市民の関心の薄さが気になる。どうやって関心を向けてもらえるか。ワークショップの宣伝もそうだが、若い世代から高齢者まで、機運を高める工夫をみんなですていきたい。

委員

・誤解あるかもしれないが、酒田にコアになるホテルがない。大きい学会をやったり、レセプション

をやったりするところがないのではと印象を持っている。A棟のホテルについて、行政からもアプローチして、ぜひ存在感のあるホテルにしてほしい。

事務局

- ・気運醸成については、これまでもアンケート調査を実施したり、市広報等に掲載させていただいている。また、9月1日号広報では、特集という形式で、検討委員会の状況等について、わかりやすく載せる予定。引き続き、様々な団体との意見交換等を踏まえながら、気運醸成を図ってまいりたい。
- ・ホテルに限らず、今回の駅前整備の各施設のあり方について、事業予定者と調整する場を設けていく予定となっている。その中で、いろんな頂戴したご意見等について、事業予定者と調整させていただきたい。

委員

- ・鶴岡と比較した場合、中心地を拠点化している鶴岡に対し、酒田は拠点がわからない。駅前が拠点であるという位置づけをアピールしていくことが必要ではないか。

委員長

- ・多賀城市と紫波町の図書館の大きな違いは、書架の高さである。背の高い書架は本が取りにくいという意見もある。事業予定者の提案は書架が高いが、これは決定か。

事務局

- ・あくまで提案であり、これから検討していく。実際、使いやすい高さということもあるだろうし、全体の蔵書計画にも関係してくると考える。その辺、事務局で詰めさせて、後日、本委員会でも意見をいただければと思う。

委員

- ・多賀城市と紫波町、どちらの方針で行くかというのは委員会の中で検討していくのか。

事務局

- ・どちらと決めるわけではなく、酒田市の図書館として基本計画を策定していく。

委員

- ・今の図書館も、高いところには本が配架されていない。そのような取扱いでいいのではないか。

事務局

- ・書架が高いと利用者が取れないと同時に、職員が配架できず作業効率が落ちる。

委員

- ・観光拠点ということであれば、主要な観光施設のイベント情報を庄内地域のものも含めて酒田市が中心になってホームページにまとめ、そこから各施設のホームページに入っていくようなポータルを作ってはどうか。独自のネットワークを作る、いいきっかけになる。オール庄内でやってほしい。併せて図書館の企画展示、新着図書、貸出情報なども一緒にしていってほしい。

事務局

- ・県立図書館による、県内の公立図書館・大学図書館の横断検索がある。酒田市もそこに入っている。

委員

- ・観光情報を中心とした情報の共有化をしてほしいということである。駅前に端末があってそこで調べられる、酒田市が中心になって、オール庄内の観光情報、イベント情報、歴史や飲食施設なども調べられるデータベースを作してほしい。

委員

- ・庄内観光コンベンション協会のホームページで検索すると、庄内の全てがわかるものを作ったが、更新がなかなかできないという課題がある。更新する人が必要。

委員

- ・高校にも図書館がある。その上で、わざわざ出かけて行きたくなるような市立図書館でないと行かない。また、本に親しむ機会が学校においても少なく、高校生がいきなり図書館に行くようになるか

心配している。

・図書館よりもイオン三川の代わりになるような機能を高校生は望んでいるようだが、気軽に立ち寄れる場所がほしいというニーズは根強くある。気軽さから図書館につなぐような機能があれば、自然と図書館に行くようになり、それが生涯の図書館利用につながればと思う。

委員

・地元出身でない若者、学生が頑張っているのに、地元が頑張らないでどうする、と思った。高校生ワークショップや市民ワークショップで意識付けしていけば、地元に残ろうという力が出てくるのではないかと。酒田市だけでなく、遊佐町など含めた周辺の情報共有は重要と感じた。

委員

・高校生だけのワークショップをやってみてもよいと思う。それをやることによって、宣伝にもつながる。

委員長

・市民ワークショップは中学生以上で行い、別に高校生ワークショップも行う予定になっている。

事務局

・このような取組みは、施設ができてからも続けていく必要があると考えている。

委員

・企業に協力をお願いして、企業内ワークショップを受けてくれるところがあるのではないかと。

事務局

・今回の市民ワークショップのPRも商工会議所等通じてお願いしているが、なかなか反応は薄い。

委員長

・ワークショップへの参加もそうだが、今後そういう機会の創出についても委員の協力をお願いしたい。

(5) 市民ワークショップの実施について（資料7に基づき事務局説明）

・質疑なし

(6) その他

・質疑なし

4 閉会